

[横浜美術館]

平成26年度業務報告及び収支決算

[公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]

※文中の事業欄において、

●：主催事業 ○：共催事業
を示します。

※文中の達成指標欄において、

□：定量的指標 ■：定性的指標
を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜美術館
所在地	横浜市西区みなとみらい3丁目4番1号
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造8階建 一部3階建
敷地・延床面積	19,803 m ² ・26,829 m ²
開館日	平成元年11月3日

2 指定管理者

法人名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル1階
設立年月日	平成20年4月1日
指定期間	平成25年4月1日から平成35年3月31日まで

3 指定管理に係る業務総括

(1) 基本的な方針の総括

今年度は、ヨコハマトリエンナーレ2014について、企画内容の独自性が各紙より評価されるとともに、また、当館がこれまでに築いてきた海外美術関係者とのネットワークにより前回展よりも多くの海外美術関係者の来館があったほか、教育普及においても、ボランティア・トークの継続的な実施や学校との多面的な連携など大きな進展が見られました。さらに、ホイッスラー展についても、専門家から高い評価を得ることができました。また、当館コレクション展がシンガポール美術館にて開催されたことは、当館の国際発信の第一歩となりました。今後も、企画展やコレクションを継続的に海外巡回できるよう準備しています。

さらに、障がい者に向けた鑑賞サポートについては、一般向けに加え市内特別支援学校に拡大したほか、若者の自立支援を行う市内財団法人と連携した鑑賞プログラムを新たに実施するなど、市民と美術館の一層多様な関係を築いています。

施設運営においては、企業連携プログラム Heart to Art の来年度の拡大にむけて、新メニューを策定し、企業とのより深く多様な関係構築に向けて準備を行いました。

以上のように、経営、事業、運営管理の面で着実に成果を上げた年となりました。

(2) 26年度の業務の方針及び達成目標の総括

① 経営の総括

ヨコハマトリエンナーレ 2014 など当館ならではの質の高い企画展(3回)とコレクション展(2回)の開催を通じ、国内のみならず海外に向けて横浜の魅力を発信しました。

都市戦略と連携し専門性を発揮した事業として、ホイッスラー展関連イベントとして展覧会と関わりをもたせた美術館ならではのコンサートを連続企画するとともに、一部のコンサートでは横浜みなとみらいホールと連携し、専門館連携による事業を展開しました。また、世界各地の14人の館長が2週間にわたって館長業務について討議する、メトロポリタン美術館主催 GMLC(Global Museum Leaders Colloquium)に当館館長が参加し、各館の取組み事例への理解を深めるとともに、国際的なネットワークを培いました。

広報事業としては、ホームページの全面リニューアルを10月に実施し、より見やすく、使いやすくするとともに、展覧会事業についての完全バイリンガル化、基本情報の多言語別ページ制作等を実現しました。

② 事業の総括

◇展覧会

ヨコハマトリエンナーレ 2014、ホイッスラー展ともに展覧会内容については美術専門家よりその独自性を評価されたものの、両展ともに目標入館者数に達しなかった結果、企画展合計の目標 435,000 人に対し、実績は 282,184 人(65%)となりました。なお、当館コレクションを活かした木版画展については、教育普及にも力を入れ幅広い層へアピールした結果、目標入館者数を上回る来場者がありました。

ヨコハマトリエンナーレ 2014 は、アーティストである森村泰昌氏をアーティストック・ディレクターに起用することで、他の国際展と差別化された展覧会を実現し、日本経済新聞、読売新聞、毎日新聞の回顧において評価を得ました。そして、アジア最大規模の国際展である光州ビエンナーレや、当館館長の逢坂恵理子が理事を務める IBA(International Biennale Association)との連携を通じて、横浜を国際的に発信することに貢献しました。

ホイッスラー展は、重要作を集め、日本美術との関係を詳しく読みとき、第3回ジャポニスム学会展覧会賞を受賞するなど美術関係者からは高い評価を得ましたが、日本では比較的知名度の低いこの画家の魅力をわかりやすく伝えるストーリー作りやそれに基づく広報展開が結果として十分にできなかったことに課題があったと考えています。開始後すぐに追加広報を行ったものの結果的には十分でなく、今回の結果を検証の上、次回以降の展覧会事業に活かします。

若手作家支援展については、新たな名称 New Artist Picks(NAP)としてスタートし、早い時期の広報、お客様動線を考慮した会場選定により、多くの方に観覧いただくことができました。

コレクション展については、ホイッスラー展と連動してコレクション展Ⅱの入館者数が伸びなかったため、コレクション展合計の目標 259,000 人に対し、実績は 153,491 人(59%)となりました。一方、当館コレクションを海外で初めて紹介する展覧会”Image & Illusion: Video Works from the Yokohama Museum of Art Collection”をシンガポール美術館にて開催し、6.4万人を超える来館者があり、横浜美術館のコレクションを世界に発信することができました。今後も、平成27年度の「石田尚志」展などの企画展を国内外に巡回できるように取組んでいくとともに、コレクションによる国内外でのパッケージ展を継続的に開催すべく、国内巡回はトリエンナーレ 2017 が開催される平成29年にメディアと連携し、また、海外巡回は平成28～30年に実施できるよう、準備を進めます。

◇横浜トリエンナーレ

当館企画展の一つという位置づけが明確になったため、美術館の全グループが前回展よりも深く関わりました。特に教育普及グループが企画運営を手掛けた中高生が小学生を導くという、今までにない鑑賞講座はNHK日曜美術館でも取り上げられ、美術界の注目を集めました。

その他にも、当館が育成したボランティアによる個人および団体むけトークを今回初めて継続的に実現させ、現代美術に親しんでいただく工夫をしました。そして、市立の全中学校への鑑賞ガイド配布、市内小学校と築いてきた関係を活かした鑑賞講座、市内中学校でのワークショップ開催など様々な角度から学校連携を行った結果、より多くの学校の来場を実現しました。

◇教育普及

障がい者に向けた鑑賞サポートは、従来より、展覧会毎の鑑賞会など他館に先駆けた活動をしていましたが、今年度は一般向けの研修会に加え、市内特別支援学校に向けて実施し、新たな利用者層に美術の魅力をより深く伝えました。

また、ヨコハマトリエンナーレ 2014 においては、市立の全中学校への鑑賞ガイド配布、市内小学校と築いてきた関係を活かした鑑賞講座などの学校連携による教育普及に加え、出品作家に関するワークショップを開催するなど、現代美術に親しむさまざまな機会を提供できました。

◇市民協働・地域社会や市民生活に貢献する取組み

小児病棟及び重症心身障がい児施設へのアウトリーチを引き続き実施するとともに、若者の自立を支援している市内財団法人と連携して鑑賞ワークショップを新規に行いました。

また、ヨコハマトリエンナーレ 2014 においては、ボランティア・トークのために様々な研修会や自主学習の機会を設け、市民の力を活かしたほか、市内中学校でのワークショップを開催し、未来を担う若者層に美術に親しむきっかけを提供しました。

③ 運営管理の総括

大規模改修に向け、横浜市と定期的に協議し、横浜市による基礎調査に協力しました。

また、高齢者向け割引サービスを来年度から開始する準備を進めるとともに、ミュージアムショップのリニューアルを6月に行い、カフェでも展覧会等と連携した限定メニューを多数提供することで、より来館しやすく、心地よく過ごしていただける美術館になるよう努めました。

そして、企業連携プログラム Heart to Art において新メニューを策定し、企業とのより深く多様な関係構築にむけて準備を行いました。

また、ヨコハマトリエンナーレ 2014 でのボランティア・トークのスムーズな実施にむけて、木版画展からボランティア・トークに取組み、美術に気軽に親しんでいただける機会を提供しました。

4 経営に関する計画

(1) 横浜美術館が国際都市横浜の魅力を牽引するための取組み

ア 個性の発揮と創造・挑戦的な取組み

[目指す成果/アウトカム]

- ・当館ならではの個性を明確にし、集客力とともに、発信性を高めます。
- ・異なるジャンルとの連携、社会に対する美術のあり方の提起など、創造性、発信性を発揮します。
- ・組織横断的で複眼的な視点を持ち、「すべての人に開かれた美術館」を目指します。

[成果についての振り返り]

- ・ヨコハマトリエンナーレ 2014 など当館ならではの質の高い企画展(3回)とコレクション展(2回)の開催を通じ、国内のみならず海外に向けて横浜の魅力を発信しました。
- ・小児病棟及び重症心身障がい児施設へのアウトリーチを引き続き実施するとともに、若者の自立を支援している市内財団法人と連携して鑑賞ワークショップを新規に行いました。

<ul style="list-style-type: none"> ・ヨコハマトリエンナーレ2014においては、ボランティア・トークのために様々な研修会や自主学習の機会を設け、市民の力を活かしたほか、市内中学校でのワークショップを開催し、未来を担う若者層に美術に親しむきっかけを提供しました。 ・ヨコハマトリエンナーレ2014でのボランティア・トークのスムーズな実施にむけて、木版画展からボランティア・トークに取組み、美術に気軽に親しんでいただける機会を提供しました。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 質の高い多様な展覧会の実施・発信と来館者の裾野を拡大する展覧会の開催 ● 市民協働 ● 地域社会や市民生活に貢献する事業の実施 ● おもてなしの心の徹底とリピーター獲得への事業の実施 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 企画展 3 回/年 コレクション展 2 期/年 ※詳細後述 □ ボランティア育成 70 人/年 □ NPO等との協働 1 団体/年 ※詳細後述 □ 6 事業/年 ※詳細後述 ■ ビジターサービスチーム設置、研究と計画実施 ※詳細後述 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 【達成】 企画展 3 回/年、コレクション展 2 期/年 【達成】 148 人/年 【達成】 1 団体/年 【達成】 6 事業/年 【達成】 ボランティア・トークの開始等ソフト面整備

イ 都市戦略との連携

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創造都市形成や、シティーセールス、観光プロモーションと連携した事業を組織横断的に展開し、横浜市の都市戦略に寄与します。 ・当館を取り巻く市場の構造、市民の生活行動様式や芸術文化に対するニーズに関するマーケティング戦略の再構築を実現します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市戦略と連携し専門性を発揮した事業として、ホイッスラー展関連イベントとして展覧会と関わりをもたせた美術館ならではのコンサートを連続企画するとともに、一部のコンサートでは横浜みなとみらいホールと連携し、専門館連携による事業を展開しました。 ・アンケート分析を通じたマーケティングを、計画どおり適正に実施しました。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 展覧会の開催にあわせた、みなとみらい21 地区に貢献できるイベント開催 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 2 回/ 年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 【達成】 4 回/年 ・11/6-3/15 グランモール公園イルミネーション《ホイッスラー展連携》 ・1/10 よこしん プレゼンツ 横浜ベイ・オーケストラ 木管アンサンブルコンサート

<p>●フォト・ヨコハマ、クラシック・ヨコハマなど横浜市が推進する事業との連携</p> <p>●横浜市のコンベンション誘致に協力したレセプション会場などとしての活用</p> <p>●当館の特色ある外観や敷地を有効活用したフィルム・コミッションへの積極的な協力</p> <p>●展覧会の会期中に来場者アンケートを実施して有効回答各500通を収集して分析</p> <p>●展覧会終了後にデブリーフィング実施</p>	<p>■随時</p> <p>■随時</p> <p>■随時</p> <p>□1回/企画展</p> <p>□1回/企画展</p>	<p>*《Heart to Art》による開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1/24-25 アメリカン・モーターフェア 2015《ホイッスラー展連携》 ・2/28 横浜アート de 街コン in 横浜美術館 <p>【達成】5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8/20 子どもアドベンチャー *再掲：子ども対象鑑賞サポート* ・クラシック・ヨコハマ 2014 ミュージウムコンサート <ul style="list-style-type: none"> ・12/7 音遊びワークショップ ・1/4 花てまり 横浜美術館 新春コンサート ・フォト・ヨコハマ 2014 <ul style="list-style-type: none"> ・パートナーイベントとしてコレクション展第2期 写真展示室「光と闇—現代の都市風景」登録*再掲：コレクション展* ・2/14 オープン・ショー開催 <p>【達成】1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/8 超音波医学会 <p>【達成】17回</p> <p>【達成】1回/企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木版画展 1,857通、ヨコハマトリエンナーレ 2014 1,456通（横浜トリエンナーレ組織委員会による実施、新港ピア会場含む）、ホイッスラー展 1,010通 <p>【達成】1回/企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木版画展 6/3、ヨコハマトリエンナーレ 2014 12/1、ホイッスラー展 3/17
---	--	--

ウ 専門性を活かしたネットワークの強化

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの対応など、財団内専門館施設の共通課題について、横断的に実施し、特定ジャンルからパイロット的に実施するなど、総合的に寄与します。 ・当館が築いてきた美術家や、事業者、NPO、ボランティア、大学などとの協働・連携体制を一層拡大・深化させていきます。
--

[成果についての振り返り]

- ・ホイスラー展関連イベントとして展覧会と関わりをもたせた美術館ならではのコンサートを連続企画するとともに、一部のコンサートでは横浜みなとみらいホールと連携し、専門館連携による事業を展開しました。
- ・小児病棟及び重症心身障がい児施設へのアウトリーチを引き続き実施するとともに、若者の自立を支援している市内財団法人と連携して鑑賞ワークショップを新規に行いました。また、ヨコハマトリエンナーレ 2014 においては、ボランティア・トークのために様々な研修会や自主学習の機会を設け、市民の力を活かしたほか、市内中学校でのワークショップを開催し、未来を担う若者層に美術に親しむきっかけを提供しました。
- ・また、世界各地の 14 人の館長が 2 週間にわたって館長業務について討議する、メトロポリタン美術館主催 GMLC(Global Museum Leaders Colloquium)に当館館長が参加し、各館の取組み事例への理解を深めるとともに、国際的なネットワークを培いました。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p><u>専門館連携</u></p>		
<p>●美術館という特別な拠点・空間を活かして、また他の専門館とも連携して、様々な芸術のイベント・ウィークの開催</p>	□5 事業/年	<p>【達成】 5 事業/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 3 回国際音楽祭 NIPPON 提携プログラム 横浜美術館コンサート《ホイスラー展関連イベント》 ・12/12 ヴォーチェス 8 が贈るア・カペラ・クリスマス ・12/13 ピエール・アモイヤルと次代を担う演奏家たち ・クリスマス・ナイト・ミュージアム《ホイスラー展関連イベント》 ・12/22 NHK 交響楽団メンバーによる弦楽四重奏 ・12/23 ハンドベル・ナイト ・12/24 《NHK 横浜放送局公開生放送》「横浜サウンド ☆クルーズ スペシャルジャズライブ」
<p>●「ホイスラー展」にて横浜みなとみらいホールと連携した関連事業実施</p>	□1 回/年	<p>【達成】 2 回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/23 クリスマス・ナイト・ミュージアム《ホイスラー展関連イベント》ハンドベル ・1/4 クラシック・ヨコハマ 2014 ミュージアムコンサート 花てまり 横浜美術館 新春コンサート <p>*再掲：専門館連携、都市戦略*</p>
<p><u>館外との連携</u></p>		
<p>●ボランティア育成、市民とのフラットなコミュニケーション、横浜美術館コレクション・フレンズを通じて実現する市民協働</p>	□3 事業/年 ※詳細後述	<p>【達成】 3 事業/年</p>
<p>●横浜市、NPO 法人など</p>	□6 事業/年	<p>【達成】 6 事業/年</p>

との連携を深め、美術館におけるエデュケーション事業を発展させた地域社会や市民に貢献する事業	※詳細後述	<p>【追加実績：他組織との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月メトロポリタン美術館主催 GMLC(Global Museum Leaders Colloquium)に館長参加 ・5/9 GMLC 館内報告会 ・3/24 かながわ国際交流財団とミュージアム・サミットを共催
---	-------	---

エ 広報・連携体制の充実・強化

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の展覧会や事業ごとの宣伝だけでなく、当館の発信のため、戦略的に展開します。 ・当館を支えていただいている市民やメディアと、信頼と支援の関係性をより強固に形成します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの全面リニューアルを10月に実施し、より見やすく、使いやすくするとともに、展覧会事業についての完全バイリンガル化、基本情報の多言語別ページ制作等を実現しました。 ・しかしながら、ウェブサイトアクセス数については、年3回の展覧会のうち2回の展覧会が特設ウェブサイトであり、当館ウェブサイトへのアクセスが増加しなかったため、1-3月に相互リンクの促進、ウェブでのメルマガ登録キャンペーン、ブックマーク貼換えの徹底など対策をとりました。その結果、10-12月には平均244,526/月だったアクセス数が、1-3月には平均304,580/月に上がりました。 ・メディア関係者との懇談会を通じ、展覧会以外への取材のきっかけとなるなど、全館広報が強化されています。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●「近隣から始まる来館者の拡大」を目標に、「近隣アートプログラム」を実施</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□3回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】18回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MMCC(MinatoMirai community club) 横浜美術館ナイトとして、近隣就業者を対象とした鑑賞会・交流会開催:木版画展4/25, ヨコハマトリエンナーレ2014 9/26, ホイッスラー展2/4 ・マークイズみなとみらい店長会 近隣商業施設の店長会で当館展覧会等を説明し近隣広報強化: H26/2/12, 4/9, 5/13, 6/10, 7/16, 8/4, 9/16, 10/7, 11/11, 12/9, 1/14, 2/17 ・マークイズみなとみらいロールプレイング大会協力 7/7,9 ・かもめSCHOOL (社)横浜みなとみらい21が主催する近隣就業者を対象とした各種事業の一つとして展覧会レクチャー:4/16 夜のアートクルーズに参加 *再掲:鑑賞

<p>●ウェブサイトへのアクセスも横浜美術館へのビジターと捉え、ウェブコンテンツ、ウェブサイトでの視聴覚プログラムの配信、メルマガやオンラインショッピングなどを通じて来館を促す手法開発</p> <p>●メディア関係者との交流会と意見交換会</p>	<p>□ウェブサイトアクセス数 5,000,000 件/年</p> <p>メルマガ登録人数 5,200 人/年</p> <p>Twitter フォロワー数 18,000 人/年</p> <p>□1回以上/年</p> <p>□コレクションを活用した広報ツール制作 1回/年</p>	<p>サポート*, 4/23 木版画展レクチャー</p> <p>【未達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ウェブサイトアクセス数 4,235,211件/年 メルマガ登録人数 6,032人/年 Twitterフォロワー数 28,180人/年 <p>【達成】 2回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> 8/19 横浜市内媒体向け 2/23 文化記者向け <p>【追加実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> H26/3/15 FM ヨコハマ” THE BREEZE” パーソナリティと楽しむ横浜美術館コレクションラリー開催 12-3月毎週金曜日 FMヨコハマ” THE BREEZE” 内「もっと楽しむ！横浜美術館」コーナー提供 <p>【達成】 1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> 3/27 クリアファイル2種
---	---	--

オ 経営基盤の強化と長期的・継続的な検証の実施

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業の安定的な実施と適切な施設管理に資する健全な収支維持のため、各事業のマーケティングの強化や外部資金の導入などにより、自主・自律的な組織運営を目指します。 PDCA サイクルを様々なレベルで機能させ業務品質管理を高めます。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画どおり、適正に実施しました。 企業連携プログラム Heart to Art において新メニューを策定し、企業とのより深く多様な関係構築にむけて準備を行いました。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自主財源の開拓 ●事業評価制度の運用 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □3種/年 ※詳細後述 □4種/年 ※詳細後述 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 【達成】 3種/年 【達成】 4種/年

カ 市との政策協働の着実な推進

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> 10年のビジョンを実現するために、市と当館の政策協働体制を確立し、相互のやり取りによって、より有効な政策・施策や事業を検討するとともに、文化芸術以外の他の政策との連携を進めます。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模改修に向け、横浜市と定期的に協議し、横浜市による基礎調査に協力しました。 政策経営協議会では大規模改修や収集について提案を行い、また、外部評価委員の視察内容を市に提案し、政策協働パートナーとしての責務を果たしています。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●政策協働による指定管理</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■政策経営協議会および指定管理者選定評価委員会への参加と各種意見の事業への反映</p> <p>※詳細後述</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】政策経営協議会4回、評価委員視察3回開催</p>

5 事業についての計画

(1) 質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を広げるための取組み

ア 質の高い多様な展覧会の実施・発信と来館者の裾野の拡大

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> 独創性、地域性、発信性、経営的な観点を踏まえて、バラエティに富んだ企画展をバランスよく実施します。 集客が期待でき、学芸的な知見・研究に基づく魅力的な企画案を積極的にマスメディアに提案し共催します。 質の高い展覧会を関係機関と協働して組織し、アジアをはじめ海外に巡回させていきます。 <p>以上を行うことで、質の高い文化活動を実現し、来館者の裾野を拡大します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ヨコハマトリエンナーレ2014、ホイッスラー展ともに展覧会内容については美術専門家よりその独自性を評価されたものの、両展ともに目標入館者数に達しなかった結果、企画展合計の目標435,000人に対し、実績は282,184人(65%)となりました。なお、当館コレクションを活かした木版画展については、教育普及にも力を入れ幅広い層へアピールした結果、目標入館者数を上回る来場者がありました。 ヨコハマトリエンナーレ2014は、アーティストである森村泰昌氏をアーティストィック・ディレクターに起用することで、他の国際展と差別化された展覧会を実現し、日本経済新聞、読売新聞、毎日新聞の回顧において評価を得ました。そして、アジア最大規模の国際展である光州ビエンナーレや、当館館長の逢坂恵理子が理事を務めるIBA(International Biennale Association)との連携を通じて、横浜を国際的に発信することに貢献しました。 ホイッスラー展は、重要作を集め、日本美術との関係を詳しく読みとき、第3回ジャポニスム学会展覧会賞を受賞するなど美術関係者からは高い評価を得ましたが、日本では比較的知名度の低いこの画家の魅力をわかりやすく伝えるストーリー作りやそれに基づく広報展開が結果として十分にできなかったことに課題があったと考えています。開始後すぐに追加広報を行ったものの結果的には十分でなく、今回の結果を検証の上、次回以降の展覧会事業に活かします。 		
<p>[取組内容]</p> <p><u>展覧会</u></p> <p>●魅惑のニッポン木版</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□目標入場者数：25,000人</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】45,607人</p>

<p>画</p> <p>【3月1日(土) - 5月25日(日)】</p> <p>横浜美術館の木版画コレクションを中心に新しい表現に挑む現代作家の作品を加え、木版画の魅力を紹介する。</p> <p>日本の伝統的版画技法として親しみ深い木版画を取り上げ、版画の楽しさや表現力の豊かさを伝える。</p> <p>●ヨコハマトリエンナーレ 2014「華氏 451 の芸術:世界の中心には忘却の海がある」</p> <p>【8月1日(金) - 11月3日(月祝)】</p> <p>美術家の森村泰昌氏をアーティストック・ディレクターに迎え、「記憶」と「忘却」をテーマの中心にすえて、内外の現代作家の新作・旧作を選定し、10章構成で紹介する。</p> <p>国内最大規模の国際現代美術展のひとつとして、横浜から最新の美術動向やアーティストを発信する。</p> <p>●ホイッスラー展</p> <p>【12月6日(土) - 平成27年3月1日(日)】</p> <p>19世紀後半のパリとロンドンで活躍した</p>	<p>□目標入場者数：180,000人</p> <p>□目標入場者数：230,000人</p>	<p>【未達成】132,908人</p> <p>【未達成】103,669人</p>
--	---	---

<p>画家ホイッスラーの回顧展。初期から晩年までの画業を画題に沿って紹介する</p> <p>日本初の本格的な回顧展。日本美術からの影響についても明らかにする。</p> <p><u>その他</u></p> <p>●企画展の海外巡回</p>	<p>■平成 27 年度以降の実施に向けて案を策定し、関係機関の打診</p>	<p>【達成】</p> <p>・H27 企画展である「石田展」の海外巡回にむけて、企画書をアジアの美術館 10 館に打診。</p>
--	--	---

イ 若手のアーティストの創作支援と発信

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アートギャラリーやグランドギャラリーを活用して、有望な若手アーティストに作品発表の機会と場を提供し、創作活動を支援します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな名称 New Artist Picks (NAP) としてスタートし、早い時期の広報、お客様動線を考慮した会場選定により、多くの方に観覧いただくことができました。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●若手作家支援事業</p> <p>横浜トリエンナーレの作家選定に資することを前提に、横浜トリエンナーレ組織委員会と連携し、ユニークな活動を展開しつつある有望な若手アーティストを独自の視点で選出し、アートギャラリーやグランドギャラリーでその作品を紹介</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□目標入場者数：3,000 人</p> <p>■9 月 作家選定 12-3 月の間 展覧会開催</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 8,086 人</p> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9/29 企画展会議で決定 ・ 10/17 プレスリリース ・ 2/7-3/1 アートギャラリー1 とカフェにおいて「田中望展「潮つ路」」開催 <p>【追加実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2/8 アーティスト・トーク ・ 出品作が第 6 回日経日本画大賞に入選

ウ 横浜トリエンナーレへの取組み

[目指す成果／アウトカム]

- ・横浜美術館を主会場に、魅力ある展示を実現するとともに、滞りなく会場運営ができるように私たちのノウハウを発揮します。
- ・教育普及プログラムの実施に努め、現代美術愛好家の裾野を広げます。
- ・会期終了後は実施結果を検証分析するとともに、現代美術の動向についての基礎調査を行い、次回展に向けた準備を開始します。
- ・横浜市に残すべき作品がある場合は、積極的に提言します。

[成果についての振り返り]

- ・アーティストである森村泰昌氏をアーティストック・ディレクターに起用することで、他の国際展と差別化された展覧会を実現し、日本経済新聞、読売新聞、毎日新聞の回顧において評価を得ました。そして、アジア最大規模の国際展である光州ビエンナーレや、当館館長の逢坂恵理子が理事を務める IBA(International Biennale Association)との連携を通じて、横浜を国際的に発信することに貢献しました。
- ・当館企画展の一つという位置づけが明確になったため、美術館の全グループが前回展よりも深く関わりました。特に教育普及グループが企画運営を手掛けた中高生が小学生を導くという、今までにない鑑賞講座は NHK 日曜美術館でも取り上げられ、美術界の注目を集めました。
- ・その他にも、当館が育成したボランティアによる個人および団体むけトークを今回初めて継続的に実現させ、現代美術に親しんでいただく工夫をしました。そして、市立の全中学校への鑑賞ガイド配布、市内小学校と築いてきた関係を活かした鑑賞講座、市内中学校でのワークショップ開催など様々な角度から学校連携を行った結果、より多くの学校の来場を実現しました。
- ・学芸員が計画的に国内外で調査し、またオリジナルグッズの製作を行いました。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<ul style="list-style-type: none"> ●会場運営 ●ショップ 	<ul style="list-style-type: none"> □事故 0 件 ■オリジナルグッズ開発 	<ul style="list-style-type: none"> 【達成】 0 件 【達成】 ・ 7/18 トートバッグ販売開始 ・ 7/26 クリアファイル、チケットホルダー、ノートブック販売開始
<ul style="list-style-type: none"> ●教育普及 	<ul style="list-style-type: none"> ■特別サポーターイベント 企画運営 ■キッズ・ガイド育成・運営 	<ul style="list-style-type: none"> 【達成】 ・ 6/20 にウェブサイトを開設し、様々な領域で活躍する 10 名によるエッセイ等を掲載するとともに、Twitter キャンペーン実施 【達成】 ・ 5/18, 6/15, 7/6, 22, 8/4, 7, 11, 12, 18-19, 24-25, 9/7, 14, 21, 10/19 夏の教室①(入門編)(航海編)(記録編) 中高生のためのヨコトリ教室 23 人 ・ 8/18-19, 24-25 夏の教室② ヨコトリ号こども探検隊 20, 19 人 【追加実績】 ・ 中高生のためのヨコトリ教室記録誌「船長の航海日誌 世界の中心には発見の海がある」市立の全中学校・高

<p>●展示</p> <p>●次回展調査</p>	<p>■4月 会場施工、輸送展示等の入札</p> <p>5月 作品輸入輸送等の連絡調整</p> <p>6-7月 会場施工、展示</p> <p>■4-6月 シドニービエンナーレ</p> <p>5月 香港アートフェア</p> <p>6月 アートバーゼル、ベネチアビエンナーレ建築展</p> <p>5-8月 ベルリンビエンナーレ</p> <p>9月 光州ビエンナーレ、メディアシティ・ソウル、釜山ビエンナーレ、大邱写真ビエンナーレ、上海ビエンナーレ、台北ビエンナーレなど</p>	<p>等学校に配布 2,000部</p> <p>【追加実績：ヨコハマトリエンナーレサポーターおよび鑑賞・館内ガイドボランティア】</p> <p>・12/21 サポーターに関するシンポジウム：『協働の地平』～ヨコハマトリエンナーレ2014 サポーター活動報告シンポジウム～</p> <p>【達成】</p> <p>・5/7, 12 輸送入札、5/30 美術館会場入札</p> <p>・7月 会場施工、展示</p> <p>【達成】</p> <p>・海外 9 展（ベルリンビエンナーレ、マニフェスタ、リバプールビエンナーレ、光州ビエンナーレ、メディアシティ・ソウル、釜山ビエンナーレ、關渡ビエンナーレ、台北ビエンナーレ、上海ビエンナーレ）</p> <p>・国内 6 展（札幌国際芸術祭、山形ビエンナーレ、福岡アジアトリエンナーレ、糸島国際芸術祭、国東半島芸術祭、京都国際現代芸術祭）</p>
--------------------------	--	---

(2) 魅力あるコレクションを形成し、活用するとともに未来に継承するための取組み

ア 魅力あるコレクションの形成、活用と未来への継承

(ア) コレクションの形成

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>・市民に親しまれる作品、美術の新しい価値を創造する作品、横浜の美術の歴史を伝える作品の収集を提案し、横浜市民共有の財産として収蔵している優れたコレクションをさらに充実させます。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>・収集方針に基づいて、収集候補作品を提案しました。</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>●今後の中期的な収集の方向性検討</p> <p>●3 か年ごとの収集計</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■平成 25 年度提案済。ただし、必要に応じ、市との協議に対応。</p> <p>■平成 25 年度提案済。ただ</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】</p> <p>【達成】</p>

<p>画策定</p> <p>●横浜トリエンナーレの機会を活かした、話題性のある現代美術作品の収集提言</p> <p>●内部検討委員会、横浜市美術資料収集審査委員会および価額評価委員会を経た適正な収集方法</p>	<p>し、必要に応じ、市との協議に対応。</p> <p>■横浜ゆかり作家の収集計画を立案 平成 25 年度提案済。ただし、必要に応じ、市との協議に対応。</p> <p>□9 月 内部検討委員会 1 回/年</p> <p>11 月 横浜市美術資料収集審査委員会および価額評価委員会 1 回/年</p>	<p>【達成】</p> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10/20 内部検討委員会 ・ 12/8 収集審査委員会
---	---	---

(イ) コレクションの継承

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収蔵庫内の環境を整え、作品の材質に適した状況で作品を安全に保存します。 ・ 作品台帳および収蔵庫内の作品蔵置場所を整備し、コレクションを確実に管理します。 <p>以上を行うことで、市民の共有財産であるコレクションを適切に保管して次世代に継承します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状の課題を市と共有し、また着実に管理した結果を目録として公開し、広く研究に貢献しました。 ・ 年 2 回、集中的な庫内清掃を学芸員が実施し、庫内環境の保全に努めました。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●収蔵庫の満杯状態を改善するための新蔵置方法提案</p> <p>●収蔵作品台帳をもとにした収蔵品目録の印刷物を作成</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■平成 25 年度提案済。ただし、必要に応じ、市との協議に対応。</p> <p>□3 月 前年度の新収蔵品の目録発行 1 回/年</p> <p>□5 月 コレクション選の発行 1 回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】</p> <p>【達成】 1 回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3/31 2013 (H25) 年度収蔵品目録 500 部発行 <p>【達成】 1 回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/25 コレクション選 4,000 部発行

(ウ) コレクションの活用

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原則として年 2 ～ 3 回コレクション展を開催します。 ・ 来場者が作品に親しみ、鑑賞を深められるよう、展示構成やテーマ展示などを工夫します。 ・ 人気の高い作品を展示する一方で、様々なテーマを立てて、1 万点近いコレクションのなるべく多くを展示し、特に新収蔵作品は迅速に展示公開します。
--

- ・同時期に開催する企画展と連動したテーマ展示をし、来館者の作品理解を深める工夫をします。
- ・質の高い鑑賞体験を確保できるよう、展示方法や展示室の環境整備と情報提供に工夫をします。
- ・コレクションをベースにする企画展を開催するほか、コレクションによるパッケージ展を立案し、他の美術館での開催をオファーします。

以上を行うことで、コレクションを市民に還元し、美術館のプロモーションに貢献します。

[成果についての振り返り]

- ・ホイッスラー展と連動してコレクション展Ⅱの入館者数が伸びなかったため、コレクション展合計の目標259,000人に対し、実績は153,491人（59%）となりました。
- ・各期とも企画展とゆるやかな連携を持たせたテーマを設定し、展覧会全体の発信力を高めました。
- ・当館の優れたコレクションを核として、木版画展を開催しました。
- ・当館コレクションを海外で初めて紹介する展覧会”Image & Illusion: Video Works from the Yokohama Museum of Art Collection”をシンガポール美術館にて開催し、6.4万人を超える来館者があり、横浜美術館のコレクションを世界に発信することができました。今後も、平成27年度の「石田尚志」展などの企画展を国内外に巡回できるように取組んでいくとともに、コレクションによる国内外でのパッケージ展を継続的に開催すべく、国内巡回はトリエンナーレ2017が開催される平成29年にメディアと連携し、また、海外巡回は平成28～30年に実施できるよう、準備を進めます。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p><u>展覧会</u></p> <p>●コレクション展Ⅰ</p> <p>【平成26年3月1日(土) - 5月25日(日)】</p> <p>特集展示：ロレンツォ・メルロ・コレクション(写真)、収蔵作品にみるアーティスト・フレンズ、横浜ゆかりの作家たち</p> <p>概要：ロレンツォ・メルロ氏旧蔵の写真コレクションの紹介、および収蔵作家相互の親交・師承関係などのつながりや外遊などに焦点を当てて紹介する。また、ハマ展など、横浜ゆかりの作家の作品を特集紹介する。</p>	<p>□目標入場者数：25,400人</p>	<p>【達成】47,833人</p>

<p>●コレクション展 II</p> <p>【平成 26 年 12 月 6 日(土) - 平成 27 年 3 月 1 日(日)】</p> <p>特集展示:光の表現— 夜景, 現代の抽象画</p> <p>概要:同時期開催のホイッスラー展に連動し、光の表現、都市景観、抽象表現の萌芽などに着目してコレクションを紹介する。</p> <p><u>その他</u></p> <p>●コレクションによるパッケージ展</p> <p>●コレクションの特別利用</p>	<p>□目標入場者数: 233,600 人</p> <p>■当館コレクション展をシンガポールにて開催</p> <p>■随時</p>	<p>【未達成】105,658 人</p> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/3-2/8 「Still Moving: A Triple Bill on the Image」展を構成する 3 展のうちの 1 展「Image and Illusion: Video Works from the Yokohama Museum of Art」として当館所蔵の映像作品 5 作品による当館コレクション展をシンガポール美術館で開催 入場者数 64,721 人 <p>【達成】95 件 348 点</p>
--	---	---

イ モノとしての「美術情報」の収集、保管、活用

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化の時代においてこそモノとしての「美術情報」の重要性と稀少性に着目し、専門的な見地にたつて、これらを収集・整理・保管し、様々な人の要望に対応し、適切かつ丁寧に提供することで、これまで蓄積してきた図書等の美術情報を発展的に継承し、公開して市民や研究者の利用に供します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜トリエンナーレアーカイヴについては、昨年度の成果を引継ぎ、収集、保管、公開し、トリエンナーレ研究に貢献しました。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●企画展等事業連動した特集公開</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□特集コーナーの設置 4 回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】12 回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料展示 <ul style="list-style-type: none"> ・木版画展 会期中 23 冊 ・ヨコハマトリエンナーレ 2014 55 冊 ・ホイッスラー展 会期中 17 冊 ・コレクション展第 1 期 会期中 14 冊 ・コレクション展第 2 期 会期中 18 冊

<p>●横浜トリエンナーレ 情報集積とアーカイ ヴ化</p> <p>●映像資料公開</p>	<p>■平成 25 年度アーカイヴ 化の方針策定済。今後は 策定した方針に基づき、 収集、保管、公開実施。</p> <p>□7 月 映画や映像作品の 公開 1 回/年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特設資料コーナー <ul style="list-style-type: none"> ・福田美蘭・米田知子 5/8-7/31 16 冊 ・石内都・濱谷浩・杉本博司 11/7-12/3 18 冊 ・特別展示関連資料コーナー <ul style="list-style-type: none"> ・ヨコハマトリエンナーレ 2014「焚書—禁じられた書物と文化財—」 8/1-11/30 34 冊 ・ホイッスラー展「同時代資料にみるホイッスラー像—『パンチ』を中心に—」 12/6-3/25 27 冊 ・ケース内資料展示 <ul style="list-style-type: none"> ・工夫を凝らした美術展カタログ 4/1-7/30 8 点 ・ヨコハマトリエンナーレ 2014「焚書—禁じられた書物と文化財—」 8/1-11/30 前期 10 点、後期 17 点（前期後期共通資料 6 点）、前期・後期合計 全 21 点 ・ホイッスラー展「同時代資料にみるホイッスラー像—『パンチ』を中心に—」 12/6-3/25 15 点 <p>【追加実績：普及活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民を対象とした探検ツアー（バックヤードツアー） 3/22 <p>【達成】</p> <p>【達成】1 回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/27-29 映像表現の最先端を紹介する国内最大級の映像アートの祭典、イメージフォーラム・フェスティバル 2014 にて当館所蔵の映像資料含む作品上映
---	---	--

ウ 美術館活動の基礎としての調査・研究

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレクション、企画展、教育普及、マネジメントなどあらゆる美術館活動の基礎として調査・研究を位置づけ、その成果を事業に反映して美術館活動の質を向上させると同時に、紀要などにまとめて社会に還元します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職位に応じて、事業および通常業務の遂行においてOJTを実施し、専門的知見とスキルの伝達および習得に取り組みました。 ・館藏品および館の事業に関する論文・研究報告 2 本を含む研究紀要を発行しました。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●紀要発行、関係機関に 配布</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□3 月 研究紀要の発行(論 文 3 本) 1 回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】1 回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10 月 ウェブサイトリニューアルに伴い、紀要論文タイトルをウェブサイトで公開

<p>●テーマを設定し、コレクションおよび企画展のための調査研究実施</p>	<p>□・コレクションおよび企画展についての研究 21 項目</p> <p>・トリエンナーレに関する研究 7 項目</p> <p>・ミュージアム・エデュケーションについての研究 22 項目</p> <p>・美術情報に関わる研究 1 項目</p>	<p>・ 3/31 紀要発行 500 部</p> <p>【達成】 計画どおり各項目調査研究実施</p>
--	--	--

(3) 美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝える取組み

ア 多様な市民が鑑賞、創作を楽しむことができるプログラム

(ア) 鑑賞サポート事業

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 25-27 年度でコレクション展鑑賞サポートのレギュラーサービス化に着手します。 ・子どもを対象とした鑑賞プログラムの開発に学校と連携して取組みます。 <p>以上のように鑑賞を深める機会を多くの方に提供することで、社会教育機関である美術館の重要な使命を、そして、幅広い世代の、様々な立場の、様々な属性を持つ人々に美術の価値を還元するという公立美術館の使命を果たします。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者に向けた鑑賞サポートは、従来より、展覧会毎の鑑賞会など他館に先駆けた活動をしていましたが、今年度は一般向けの研修会に加え、市内特別支援学校に向けて実施し、新たな利用者層に美術の魅力をより深く伝えました。 ・ヨコハマトリエンナーレ 2014 においては、市立の全中学校への鑑賞ガイド配布、市内小学校と築いてきた関係を活かした鑑賞講座などの学校連携による教育普及に加え、出品作家に関するワークショップを開催するなど、現代美術に親しむさまざまな機会を提供できました。 		
<p>[取組内容]</p> <p><u>鑑賞サポート事業</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●コレクションを活用した鑑賞サポート ●ギャラリートーク ●学芸員や収蔵作家によるレクチャー 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □8 回/年 □1 回/コレクション展 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 11回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期 H26/3/7, 21, 4/4, 18, 5/2, 16 ・第2期 12/19, 1/16, 30, 2/6, 20 <p>【達成】 1回以上/コレクション展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期 4/29 リレー・レクチャー ・第2期 1/18, 2/15 アーティスト・トーク (嶋田しづ, 金村修)

<p>●鑑賞ワークショップ</p> <p>●障がい者向け鑑賞会</p> <p>●高齢者向けプログラム</p> <p>●さまざまな人に向けた鑑賞サポートシートの作成</p>	<p>□2回/年</p> <p>■平成27年度にむけ準備</p> <p>□5作品/年</p>	<p>【達成】3回/年</p> <p>・4/25, 5/20, 1/17 横浜市特別支援学校3校</p> <p>【達成】3月国内事例調査</p> <p>【達成】5作品/年</p> <p>・2/17-3/1 5作品5シート 5,000部</p>
<p>●企画展鑑賞サポート</p> <p>●ギャラリートーク</p>	<p>□6回/年</p>	<p>【達成】6回/年</p> <p>・木版画展 H26/3/28, 4/25, 5/23</p> <p>・ホイッスラー展 1/9, 23, 2/6</p>
<p>●講演会等</p>	<p>□6回/年</p>	<p>【達成】7回/年</p> <p>・木版画展 H26/3/29 (講師：中林忠良)</p> <p>・ヨコハマトリエンナーレ2014 Temporary Foundation 8/6, 9/11, 10/5, 17(出演：建畠哲, 加治屋健司, 下條信輔, 河本信治, 森村泰昌, 仲正昌樹)</p> <p>・ホイッスラー展 12/6, 1/17(講師：小野文子, 馬淵明子)</p>
<p>●鑑賞ワークショップ</p>	<p>□1回/企画展</p>	<p>【達成】1回以上/企画展</p> <p>・木版画展 5/5子どもの日スペシャル「木版画を摺ってみよう！」</p> <p>・ヨコハマトリエンナーレ2014 8/17 オリジナルハンコを作家自身があなたに押す(葛西絵里香)</p> <p>8/31, 9/28 オリジナルスタンプを作ってヨコトリ2014を盛り上げよう！</p> <p>9/6, 13, 10/12, 25 ヴィム・デルボアの芸術探究「彫刻鑑賞・創作体験」 *10/27-11/3講座参加者作品展</p> <p>*再掲：以上すべて、市民のアトリエ*</p> <p>・ホイッスラー展 1/25「書でつくるオリジナルサイン」</p> <p>*再掲：市民のアトリエ*</p>
<p>●夜の美術館でアートクルーズ</p>	<p>□2回/企画展</p>	<p>【達成】2回/企画展</p> <p>・木版画展 H26/3/15, 4/16</p> <p>・ヨコハマトリエンナーレ2014 9/3, 27</p> <p>・ホイッスラー展 1/14, 24</p>
<p>●「鑑賞サポートシ</p>	<p>□2回/年</p>	<p>【達成】子ども向け鑑賞シート 3回/年</p>

<p>ト」作成</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・木版画展 学校の先生・保護者向けの鑑賞シートをウェブサイト掲載：アクセス数1,832件 ・ヨコハマトリエンナーレ2014 「中学生のためのヨコトリ2014をもっと楽しむ！鑑賞ポケットガイド」(昨年度作成)市立の全中学校に配布・会期中配布 88,000部 ・ホイッスラー展 ジュニアガイドを市立の全小学校5,6年生と市立の全中学校1年生に配布・会期中配布 150,000部 <p>【追加実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木版画展 およこの鑑賞優待！のついた特別チラシを市立の全小学校4,5年生に配布 66,000部:利用者74人 ・ヨコハマトリエンナーレ2014 「親子でたのしむヨコトリ2014鑑賞ポケットガイド」を親子のフリーゾーン参加家族に3回配布 550部 <p>【追加実績：アーティストトーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H26/3/22, 4/19, 5/10, 17(湯浅克俊, 吉田亜世美, 風間サチコ, 桐月沙樹)
<p>子ども対象鑑賞サポーター</p>		
<p>●個人向け鑑賞講座</p>	<p>□3 講座/年</p>	<p>【達成】 3講座/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8/20 子どもアドベンチャー ・1/11, 18, 25 横浜美術館鑑賞クラブ「美術ってなんじやもんじゃ？」 *再掲：子どものアトリエ* ・1/12 親子で「ホイッスラー展」を見よう人《ホイッスラー展関連イベント》 *再掲：子どものアトリエ*
<p>●学校プログラムと連動した鑑賞プログラム</p>	<p>□1 回/年</p>	<p>【達成】 5回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/1, 7, 8, 10, 20 横浜市内小学校5校が子どものアトリエスタッフとともにヨコハマトリエンナーレ2014鑑賞およびワークショップ参加 <p>【追加実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9-10月 子どものアトリエ学校プログラム参加の8校が子どものアトリエスタッフとともにヨコハマトリエンナーレ2014を短時間鑑賞
<p>●夏休み子どもフェスタ</p>	<p>□1 回/年</p>	<p>【達成】 1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8/11-13 横浜市内中学校美術部9校がアートティーチャーズサポーターとともにヨコハマトリエンナーレ2014 鑑賞

(イ) 創造支援事業 子どものアトリエ

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの内的発達を支援するとともに、美術および美術館に親しむきっかけを提供します。 ・学校と連携し、造形、美術教育に取り組めます。 <p>以上のように、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた子ども向けの創造支援事業を継承することで、造形活動を通して子どもの自立を支援します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・26,517人の子どもたちに造形体験を通して、美術および美術館に親しむ機会を提供しました。 ・学校プログラムについては、年度末に1校キャンセルがありましたが、それ以外の学校89校にプログラムを提供しました。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校プログラム:横浜市内の小学校、幼稚園・保育園、養護・特別支援学校・区毎の個別支援学級合同、各種学校を対象に実施 ●個人向け造形講座 ●親子のフリーゾーン 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □90校/年 □20講座/年 □定員の80%以上の参加者 □36回/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【未達成】89校/年</p> <p>【達成】20講座/年、114%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20講座（造形講座） ・114%（定員480人に対し、参加者545人） <p>【達成】36回/年</p> <p>【追加実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月 ヨコハマトリエンナーレ2014のギムホンソック作品にちなんだ「私のクマちゃん」コーナーを設置

(ウ) 創造支援事業 市民のアトリエ

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作体験をきっかけに美術に親しむ市民の裾野を広げるとともに、市民の創作活動を支援します。 ・創作体験を鑑賞につなげるワークショップを行い、作品鑑賞への興味を広げます。 ・若手アーティストを講師とするワークショップを開催し、新しい表現の魅力を市民に伝えると同時に作家支援につなげます。 <p>以上のように、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた一般の市民向けの創造支援事業を深化させることで、市民の創作活動を支援します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5,738人の方に創作活動の楽しみを体験していただきました。 ・ヨコハマトリエンナーレ2014においては、出品作家に関するワークショップを開催するなど、現代美術に親しむさまざまな機会を提供できました。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ワークショップ:市民が美術に親しむため 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □30講座/年（若手作家講座15回、大学連携2講座、 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】30講座/年、109%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30講座/年（含：若手アーティストによるワークショ

<p><u>フラットなコミュニケーション</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●学芸員 OB、観光業 OB などとの連携によるおもてなしの心育成 ●横浜シティガイド協会などとの連携による横浜観光促進 ●原三溪生誕 150 年に向けた原三溪研究会との共同研究 <p><u>フレンズ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●平成 26 年度横浜美術館フレンズ募集 ●平成 26 年度フレンズ会員向けプログラム ●協力会との共同レセプションデスクの設置 	<ul style="list-style-type: none"> ■平成 26 年 7 月実施 ■平成 26 年 8 月実施 <p>□1 回/月開催</p> <p>□参加数 120 口</p> <p>□8 回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ■平成 25 年度実施済 	<p>ター)</p> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/30 横浜シティガイド協会による館内スタッフ向けおもてなし研修 <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/17, 19 メールマガジン会員に向け、パブリックアート(案内：横浜シティガイド協会ガイド)とヨコハマトリエンナーレ 2014 鑑賞(案内：トリエンナーレサポーター)実施 <p>【達成】 1 回/月開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6, 10 月除く毎月 研究会 ・6/14-15 京都スタディ・ツアー ・10/11「世界遺産登録記念シンポジウム 富岡製糸場と横浜の原三溪」実施 <p>【達成】 147 口</p> <p>【達成】 10 回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会 10/25, 3/8 ・トーク 5/14, 17 9/24, 28 12/17, 20 2/4, 7 <p>【達成】 継続実施</p>
--	---	---

イ 地域社会や市民生活に貢献する取組み

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 25-27 年度には、横浜市、学校、関連機関、NPO 法人などとの連携を深めるとともに、市民との協働を充実させ、美術館におけるエデュケーション事業を地域社会や市民生活に貢献する事業に発展させていく足がかりとします。 <p>以上のような事業を通じて、障がい者、高齢者、外国人など様々な人々が、お互いを尊重して生き生きと暮らせる社会の形成に寄与します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児病棟及び重症心身障がい児施設へのアウトリーチを引き続き実施するとともに、若者の自立を支援している市内財団法人と連携して鑑賞ワークショップを新規に行いました。 ・ヨコハマトリエンナーレ 2014 においては、ボランティア・トークのために様々な研修会や自主学習の機会を設け、市民の力を活かしたほか、市内中学校でのワークショップを開催し、未来を担う若者層に美術に親しむきっかけを提供しました。
--

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p><u>美術館アクセス・鑑賞サポート事業</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 福祉関係機関、NPO 法人等と連携した、コレクション鑑賞サポート事業 <p>※再掲：障がい者向け鑑賞会</p>	<p>□1回/年</p>	<p>【達成】2回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/6, 2/16 ヨコハマトリエンナーレ 2014, コレクション展第2期体験プログラム (K2 インターナショナルと連携)
<p><u>学校教育連携事業</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● アートティーチャーズ・デー ● 夏休み子どもフェスタにおける教師ボランティア受入 ● 横浜市芸術文化教育プラットフォーム受入 ● 大学連携 <ul style="list-style-type: none"> ● 大学と連携したワークショップ <p>※再掲：市民のアトリエ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大学と連携した展覧会ウェブサイト構築 	<p>□1回/企画展</p> <p>□10人/年</p> <p>□2回/年</p> <p>□2講座/年</p> <p>□3回/年</p>	<p>【達成】1回/企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木版画展 H26/3/15 ・ヨコハマトリエンナーレ 2014 8/30 ・ホイッスラー展 12/20 <p>【未達成】8人/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/9-8/13 8人 <p>【達成】7回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/28-29, 6/20, 6/26-27, 6/30, 7/3, 7/8, 10, 7/9 横浜市内中学校7校 <p>【達成】8講座/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/19-12/7「ネオライムストーンで彫刻制作を楽しむ」(横浜美術大学と連携) *再掲：市民のアトリエ* ・5/28-29, 6/20, 6/26-27, 6/30, 7/3, 7/8・10, 7/9に市内中学校7校に提供した横浜市芸術文化教育プラットフォーム(横浜美術大学と連携) *再掲：地域社会や市民生活に貢献する取組み* <p>【達成】4回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイト制作：木版画展, コレクション展第1期 ・映像制作：コレクション展第2期, 若手作家支援
<p><u>環境啓発事業</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 他団体との連携による、横浜みどりアップ・ワークショップ開催 	<p>□1講座/年</p>	<p>【達成】2講座/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/8-12/20 陶芸&苔玉「小さな森づくり」 ・12/14, 21「苔玉の小さな森づくり」

<p>※再掲：市民のアトリエ</p> <p>病院・福祉施設へのアウトリーチ</p>	<p>□1 回/年</p>	<p>【達成】1 回/年</p> <p>・8/26 神奈川県立こども医療センター *《Heart to Art》による開催</p>
<p>●病院・福祉施設へのアウトリーチ</p> <p>企業とともに社会に貢献する事業</p>	<p>□2 回/年</p>	<p>【達成】2 回/年</p> <p>・8/23 天王町夏祭り子どもフェスタ</p> <p>・10/31 瀬谷中央保育園</p> <p>【追加実績：その他アウトリーチ】</p> <p>・8/8 親子でエコ教室共催（パフォーマンスショー&ポスター制作）*《Heart to Art》による開催</p> <p>・11/1 杉田劇場「親子講座土粘土で遊ぼう」</p>
<p>美術や教育活動を支える人材育成事業</p> <p>●博物館実習</p> <p>●子どものアトリエインターンシップ</p>	<p>■平成 27 年度にむけ準備</p> <p>□10 人/年</p>	<p>【達成】3 月 平成 27 年度博物館実習応募要項公表</p> <p>【達成】10 人/年</p> <p>・6/21-3/31 9 人</p> <p>・11/1-3/31 1 人</p> <p>【追加実績：教育プロジェクトチーム インターンシップ】</p> <p>・5/10-3/29 3 人</p>
<p>●子どものアトリエ教師のためのワークショップ</p>	<p>□2 回/年</p>	<p>【達成】2 回/年</p> <p>・7/26-27、3/21-22</p>
<p>●各種研修受入れ</p> <p>●保育士、教師を対象とした研修</p> <p>●その他研修</p>	<p>■随時</p> <p>■随時</p>	<p>【達成】9 件 9 団体</p> <p>【達成】7 件 4 団体</p>

6 施設の運営に関する計画

(1) お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行うための取組み

ア おもてなしの心の徹底とリピーターの獲得

(ア) 横浜美術館におけるビジターサービスの取組み

[目指す成果/アウトカム]

・お客様の高い満足度をめざし、美術館に来てよかった、また来たいと思っていただけるよう運営し、障がい者、

高齢者や乳幼児をお連れのお客様、外国人など様々な来館者ニーズへ対応します。

・平成 25 年度は研究と計画、平成 26 年度をスタッフの養成と準備、平成 27 年度をスタッフの OJT と試行の年と位置づけます。

[成果についての振り返り]

・ヨコハマトリエンナーレ 2014 でのボランティア・トークのスムーズな実施にむけて、木版画展からボランティア・トークに取組み、美術に気軽に親しんでいただける機会を提供しました。

・高齢者向け割引サービスを来年度から開始する準備を進め、心地よく過ごしていただける美術館になるよう努めました。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p><u>拠点確立</u></p> <p>●ビジターサービスの拠点を、来館者がアクセスしやすいスペースを活用して設営（アートギャラリー 2 など）</p>	<p>■平成 25 年度実施済</p>	<p>【達成】</p>
<p><u>おもてなし</u></p> <p><u>ホスピタリティの向上(新サービス開発)</u></p> <p>●個人の希望者に向けた鑑賞前レクチャーや鑑賞後ワークショップ定期開催</p>	<p>■平成 26 年 8 月実施</p>	<p>【達成】 100 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木版画展 H26/3/1-5/25 毎日曜日ボランティア・トーク 26 回《木版画展関連イベント》 ・ヨコハマトリエンナーレ 2014 8/15-10/26 ボランティア・トーク 74 回《ヨコハマトリエンナーレ 2014 関連イベント》 ・ホイッスラー展 実施なし
<p>●希望に応じて団体鑑賞前レクチャー実施</p>	<p>■随時</p>	<p>【達成】 114 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木版画展 学芸員によるトーク 6 件 ・ヨコハマトリエンナーレ 2014 ボランティア・トーク 99 件 ・ホイッスラー展 学芸員によるトーク 7 件 コレクション展Ⅱ 学芸員によるトーク 2 件
<p><u>アメニティの向上</u></p> <p>●無料でダウンロードできる横浜美術館アプリなど鑑賞サポートツールの開発</p>	<p>■平成 25 年度実施済</p>	<p>【達成】 継続活用</p>

<p>●駅から美術館への動線へのサイン設置、グランドギャラリーの演出、備品リニューアルによる快適な周辺環境の整備</p>	<p>■みなとみらい駅サイン 平成 25 年度設置済</p> <p>■備品リニューアル 平成 25 年度実施済</p> <p>□グランドギャラリー演出 1 回/企画展</p>	<p>【達成】</p> <p>【達成】 継続活用</p> <p>【達成】 1 回/企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木版画展 開館 25 周年を記念し、H26/3/29-12/28 記念ポスター制作掲示、H26/3/29-4/24 歴代 105 件企画展をモニター紹介、4/25-5/25 歴代 105 件企画展チラシ展示 ・ヨコハマトリエンナーレ 2014 作品があるため実施できず ・ホイッスラー展 12/27-1/7 お正月飾り
<p>●横浜市の観光案内所と連携</p> <p><u>アクセシビリティの向上</u></p> <p>●条例以外の減免・無料措置などソーシャルインクルージョンへの取組み</p> <p>●高齢者、外国人、障がいをもつ方々が利用しやすい美術館となるためのサイン計画</p>	<p>■平成 25 年度実施済</p> <p>■随時</p> <p>■平成 26 年 12 月実施</p>	<p>【達成】 継続実施</p> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H26/3/29 横浜美術館開館 25 周年・西区制 70 周年記念無料観覧 ・H27/11 高齢者割引を開始予定 <p>【達成】 H27.2 サイン計画マニュアル改訂</p> <p>【追加実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3/27 要覧再発行 ・3/28 多言語によるファシリティガイド発行
<p><u>来場者コミュニケーション</u></p> <p>●PDCA サイクルによる迅速・適切なクレーム対応を行うお客様目線の運営</p> <p>●顧客サービス員、電話、ホームページなどを通じて寄せられたご意見への迅速な一次対応</p>	<p>□原則、48 時間以内の一次対応</p>	<p>【達成】</p>

<p>●重要なご意見について、報告書による館内共有、モニタリングによる市共有によりお客様対応改善</p>	<p>■館内共有 随時</p> <p>□モニタリング原則 1 回/月</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内共有 随時 ・4/25, 5/30, 6/24, 7/22, 8/20, 9/22, 10/22, 12/24, 1/28, 2/25, 3/18 モニタリング実施
<p><u>休館日および開館時間</u></p> <p>●集客の見込める展覧会期間中の臨時開館日設定</p> <p>●企画展の関連イベント開催時には夜間開館も実施</p>	<p>□9 日/年</p> <p>□4 回/年</p>	<p>【達成】 9 日/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨコハマトリエンナーレ 2014 8/14, 28, 9/11, 25, 10/9, 23, 30 ・ホイッスラー展 12/25, 1/3 <p>【達成】 7 回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨコハマトリエンナーレ 2014 8/9, 9/13, 10/11, 11/1 ・ホイッスラー展 12/22, 23, 24
<p><u>レクチャーホール</u></p> <p>●レクチャーホール貸出の利便性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き状況をホームページに掲載 ・平日練習プランの運営 	<p>□稼働率 72%</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稼働率 81%
<p><u>チケット</u></p> <p>●チケット入手容易化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前売券の販売 ・企画展の規模に応じた販路拡大 	<p>■前売券販売開始 2 か月前</p> <p>□館外販売 1 か所以上/展覧会</p>	<p>【達成】 2 か月以上前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木版画展(H26/3/1 開始) H26/11/22 先行ペア券・ポストカードセット券発売, H26/1/1(ショップでは H26/1/4)前売券・ドリンクセット券発売 ・ヨコハマトリエンナーレ 2014(8/1 開始) 4/25 前売券発売 ・ホイッスラー展(12/6 開始) 8/1 先行ペア券発売, 9/16 前売券発売 <p>【達成】 1 か所以上/展覧会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木版画展 セブンチケットなど 2 か所 ・ヨコハマトリエンナーレ 2014 セブンチケットなど 20 か所以上 ・ホイッスラー展 セブンチケットなど 20 か所以上

(イ) 館内サービスの充実

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 展覧会や教育普及といった主要事業に加え、ミュージアムショップやカフェなどの周辺事業でも、サービスに工夫を凝らして来館することの付加価値を上げ、お客様満足度の向上とリピーター獲得を目指します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ミュージアムショップのリニューアルを6月に行い、カフェでも展覧会等と連携した限定メニューを多数提供することで、より来館しやすく、心地よく過ごしていただける美術館になるよう努めました。 		
<p>[取組内容]</p> <p><u>ミュージアムショップ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 展覧会関連商品、当館ならではのユニークな商品提供 ● 遠方のお客様を中心としたニーズに応えるためのオンラインショップ運営 ● オンラインショップ活性化のためのホームページ活用 <p><u>café 小倉山</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 展覧会と連携した限定メニューの開発 ● フリースペースを活用した観客誘致事業や近隣施設連携事業などを展開 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 企画展特設コーナー設置 1回/企画展 <input type="checkbox"/> コレクション活用オリジナル商品開発 1商品/年 <input type="checkbox"/> 掲載点数 200点/年 <input type="checkbox"/> 季節に合わせた特設ウェブサイトを設置 3回/年 <input type="checkbox"/> 6種/年 ■ 随時 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 1回/企画展</p> <p>【達成】 2商品/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/4 葉書 28種(増刷14種含む) ・ 4/25 コレクション選 *再掲:コレクション* <p>【追加実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6/5-11 リニューアル工事、7/12 リニューアルオープン <p>【達成】 常時 200点以上/年</p> <p>【達成】 3回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月母の日、12月クリスマス、2月バレンタイン <p>【追加実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月美術館ウェブサイトリニューアルに伴うショップウェブサイトのリニューアル <p>【達成】 27種/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木版画展 1種 ・ ヨコハマトリエンナーレ 2014 9種 ・ ホイッスラー展 2種 ・ 西区制70周年1種、春3種、夏4種、秋3種、冬3種(クリスマス1種含)、正月1種 <p>【達成】 4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5/20-6/29 横浜みなとみらいホール「ビヨンド・ザ・ボーダー音楽祭 2014」コーナー設置 ・ 6/14-7/6 歴代105件企画展チラシ展示 ・ 12/4-3/16 イルミネーション装飾 ・ 12/23-28 横浜みどりアップ・ワークショップ「苔玉の小さな森づくり」参考作品展

<ul style="list-style-type: none"> ●グループ長会議 定例化 ●子どものアトリエ企画運営会議開催 ●副館長の配置 <u>効率性と総合力が発揮された事業展開のため</u> <u>の事業部門と経営部門連携</u> ●横断的な情報共有のためにチームリーダー連絡会を定例化 <u>横浜市との政策協働や美術館の社会的役割の拡大に対応した組織</u> ●教育プロジェクト チーム増員 ●ビジターサービス チーム新設 	<ul style="list-style-type: none"> ■隔週 □3月 1回/年 ■平成25年度配置済 ■隔週 ■平成25年度増員済 ■平成25年度新設済 	<ul style="list-style-type: none"> 【達成】 【達成】1回/年 ・3/7に「美術館教育普及検討会議」として教育普及グループ全体の課題について討議 【達成】 【達成】 【達成】 【達成】
--	--	---

イ 専門人材育成

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<ul style="list-style-type: none"> ●適材適所の人材配置 ●横浜トリエンナーレにむけた現代美術専門人材など専門人材育成 ●企画展事前レクチャーやホスピタリティ研修など専門館にふさわしい人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> ■人事評価制度の導入 導入済 ■横浜トリエンナーレや施設管理に対応する外部委託人材の活用 対応済 <u>当館職員の育成</u> ■日常的なOJT ■当財団全体の各種研修に参加 □企画展事前レクチャー 1回/企画展 □5月 接遇研修 1回/年 □安全・安心な施設運営 	<ul style="list-style-type: none"> 【達成】 【達成】 【達成】 日常的に実施 【達成】 随時参加 【達成】 1回/企画展 ・H26/2/26, 7/30, 12/3 実施 【達成】 1回/年 ・7/30 横浜シティガイド協会による館内スタッフ向けおもてなし研修実施 *再掲：フラットなコミュニケーション* 【達成】 1回/年

	<p>持の訓練・研修 1回/年</p> <p><u>専門職の育成</u></p> <p>■学芸員：美術品保全、コレクション形成、展覧会立案実施、横浜トリエンナーレ実施、専門分野の確立の観点から育成</p> <p>■エディタール：若手職員の発想力を重視すると共に、それぞれの専門性を活かし、現代作家の動向、様々な対象者、鑑賞活動と創作体験の関連、他施設、他団体との連携、市民協働、社会貢献等を常に幅広く視野に入れ活動を展開する柔軟なコーディネート力と指導力を重視し育成</p>	<p>・5/30 AED研修</p> <p>【達成】</p> <p><u>学芸</u></p> <p>・日常的なOJTの実施</p> <p>・国際展への調査派遣 *再掲：横浜トリエンナーレ*</p> <p>・現代美術の作家・作品等の学芸員調査招聘</p> <p>・3月 オランダ 1人</p> <p>・5/22-23全国美術館会議, 10/23美術館連絡協議会総会に出席</p> <p><u>教育普及</u></p> <p>・日常的なOJTの実施</p> <p>・国際展への調査派遣 *再掲：横浜トリエンナーレ*</p>
--	---	---

ウ 自主財源の開拓

<p>[取組内容]</p> <p>●ファンドレイジングとして、当館でおこなわれる広報活動、教育プログラム、子どもの育成活動を企業と協働で実施する機会 《Heart to Art》継続</p> <p>●駐車場の各種割引サービス実施</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□目標：1社</p> <p>□割引制度 3種</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 1社</p> <p>・横浜信用金庫</p> <p>・《Heart to Art》拡大に向け、12月に新メニュー決定、ウェブサイト概要公表、次年度契約を2社(新規1社)締結</p> <p>【追加実績：特別鑑賞会】</p> <p>・H26/3/13 NKKシームレスパイプ鋼管</p> <p>【達成】 3種</p> <p>・駐車場利用日に館内でのお買い物合計が3,000円以上の場合最初の90分無料(H27.10まで)</p> <p>・障がい者手帳をお持ちのお客様は最初の90分無料</p> <p>・当美術館の展覧会ご観覧の為に団体バスは2時間まで無料</p>
--	---	--

7 その他の計画

(1) 政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現するための取組み

ア 政策協働による指定管理

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<ul style="list-style-type: none"> ●政策協働実現のため、政策経営協議会参加 ●一連のプロセスの透明性を高めるため、指定管理者選定評価委員会出席 	<ul style="list-style-type: none"> ■政策経営協議会参加と各種意見の事業への反映 ■指定管理者選定評価委員会出席と各種意見の事業への反映 	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/30, 8/25, 10/27, 2/9 実施 <p>【達成】</p> <p>指定管理者選定評価委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/16 評価委員会ヒアリング ・8/18 評価委員会 <p>指定管理者選定評価委員視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木版画展 5/2, 11 ・ヨコハマトリエンナーレ 2014 8/18 ・ホイッスラー展 2/8, 10

イ 当財団独自の事業評価制度の運用

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<ul style="list-style-type: none"> ●当財団全体の経営を評価する団体評価 	<input type="checkbox"/> 進捗状況報告 1回/年 ※評価は協約期間終了時に実施	<p>【達成】1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月 財団にて報告済
<ul style="list-style-type: none"> ●施設やグループごとの年度を通した施設等組織評価 	<input type="checkbox"/> 2回/年	<p>【達成】2回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/29 事業報告提出、10/27 半期振返り提出
<ul style="list-style-type: none"> ●事業ごとの個別事業評価 	<input type="checkbox"/> 1回/事業	<p>【達成】1回/事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業随時実施
<ul style="list-style-type: none"> ●横浜美術館内の PDCA サイクル 	<input type="checkbox"/> 指定管理者モニタリング 原則1回/月	<p>【達成】原則 1回/月</p>

ウ 「横浜市文化施設指定管理業務評価システム」による評価

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<ul style="list-style-type: none"> ●横浜市が委嘱する選定評価委員会による指定管理施設に対する外部評価の実施 	<input type="checkbox"/> 1回/年の評価において各評価軸項目の平均 B(=目標通り達成できている)以上	<p>【達成】8月 B確定</p>

エ 年報の発行

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<ul style="list-style-type: none"> ●長期的な振返りの基 	<input type="checkbox"/> 平成 25 年度年報上半期	<p>【達成】1回/年</p>

<p>礎と事業活動の対外的な説明のための年報発行</p>	<p>の発行 1回/年 ■平成 26 年度年報の翌年度上半期の発行を目指し準備</p>	<p>・ 6/30 発行 【達成】 H27 上半期発行見込み</p>
------------------------------	--	---

8 収支決算額について

収支決算書

(単位:円)

項目	予算額	決算額	差額	備考
収入				
指定管理料収入	721,951,000	721,951,000	0	
利用料金収入	68,058,000	63,986,314	△ 4,071,686	展覧会入館者数減に伴うコレクション展収入及び駐車場収入減
事業収入	235,977,000	167,685,148	△ 68,291,852	企画展入館者減に伴う収入減
助成金等	6,500,000	4,846,112	△ 1,653,888	木版画展助成金減
その他収入	58,374,000	58,741,932	367,932	
合計	1,090,860,000	1,017,210,506	△ 73,649,494	

支出				
人件費	351,372,000	333,988,223	△ 17,383,777	退職手当見直しに伴う積立減
事務費	50,253,000	55,497,786	5,244,786	消費税増
負担金	797,000	814,275	17,275	
管理費	219,065,000	220,050,178	985,178	
事業費	386,723,000	325,926,252	△ 60,796,748	展覧会事業費減
その他支出	82,650,000	74,352,933	△ 8,297,067	ショップ消費税、仕入減
合計	1,090,860,000	1,010,629,647	△ 80,230,353	

収支計	0	6,580,859	6,580,859	
-----	---	-----------	-----------	--

9 人員配置

計	47人
・館長	1人
・副館長	1人
・グループ長	3人
・担当グループ長	4人
・チームリーダー	6人
・担当リーダー	10人
・職員	22人

10 留意事項

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<ul style="list-style-type: none"> ●保険及び損害賠償の取扱い ●法令の遵守と個人情報保護 	<ul style="list-style-type: none"> ■業務の基準に基づいた適正な取扱い ■コンプライアンス窓口の設置 設 	<ul style="list-style-type: none"> 【達成】 ・適正に実施 【達成】

<ul style="list-style-type: none"> ●情報公開への積極的取組 ●市及び関係機関等との連絡調整 ●その他 <ul style="list-style-type: none"> 1) 許認可及び届出等 2) 施設の目的外使用 3) 人権の尊重 4) 近隣対策 5) 重要書類の管理 6) 行政機関が策定する基準等の遵守 7) 法令の制定及び改正への対応 	<p style="text-align: center;">置済</p> <p>□個人情報保護研修 1回/年</p> <p>■財団事務局に情報公開窓口を設置 設置済</p> <p>■横浜市や関連機関との連絡緊密化</p> <p>■法令・条例・規程等に基づいた適正な管理実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・財団にて設置済 【達成】3回/年 ・4/8 美術館にて新採用職員向けにコンプライアンス研修実施 ・6/24・30、2/20・24 財団にて全職員向けにコンプライアンス研修実施 【達成】 【達成】 ・適正に実施 【達成】 ・適正に実施
--	---	---